

1599件のパブコメを無視して支所廃止条例を上程へ

11月26日からの1か月間、大楽毛、春採、桜ヶ岡の3支所と1分室の廃止に関する市民意見の募集（パブコメ）が行われました。結果は全体で1599件、賛成6件、反対1205件。賛否がわかる意見だけで見ると、実に99.5パーセントが反対でした。

しかし、鉦路市はこの意見を一顧だにせず、支所廃止条例の提出を決めました。

パブリックコメントの結果

- 意見の件数 1599件（1246人）
- 意見の取り扱い
 - ・案を修正するもの 0
 - ・既に案に盛り込んでいるもの 0
 - ・今後参考にするもの 60
 - ・意見として伺ったもの 1539

多くの反対の意見が寄せられました。市のホームページには、パブコメの意見をどう市政に生かすか、区分して示しています。

右の表を見て分かる通り、市は1600件近い意見が寄せられても、廃止条例をほんの一部も修正することをしま

せんでした。しかも、1539件は「意見として伺った」、つまり「見ただけ」という態度です。そこには真摯な姿勢は見られません。

意見募集を締め切つてわずか一日で、市の回答をつけて結果を発表したのですから、どんなにパブコメがあっても無視すると、最初から決めてかかっていたかのような迅速すぎる対応に驚きました。

たたかひの再終章は12月市議会の場に

12月7日から、いよいよ市議会が始まります。共産党の4人の市議は、全員が一般質問で支所廃止問題を取り上げ

る予定です。村上かずしげ議員は、条例が付託される民生福祉常任委員会に所属していますから、委員会の審議でも徹底して支所問題の論戦をします。

さて、今度は市議会の側が、市長の横暴を追認するのか、市議会としてのチェック機能を発揮するのが、問われることとなります。

新聞記事には、司法書士会支部長が、「市議会には活発な議論と、良識ある判断をお願いしたい」とコメントしています。この問いにどう答えるのか、市議会の良識が試されます。



支所廃止の撤回を求めて各地で街頭演説を続ける村上議員

津波対策の強化を申し入れ

市議団は5日、市に対して来年度の予算要望を行います。そのなかの、津波・洪水対策について紹介します。

①千島海溝沿いの巨大地震による大津波から市民の命を守るために、地域防災計画を抜本的に見直すこと。また、新たな津波被害を想定した「津波ハザードマップ」を早期に改定、公表すること。

②巨大津波から命を守るために、可能な限り多くの津波一時避難施設を指定すること。津波避難施設については、既存の建物の指定や改修にとどめず、市内西部・中部を中心に、必要な地域には市の責任で新たな津波避難施設を整備すること。また、高層の公営住宅を津波避難施設として積極的に活用すること。

③鉦路市が中心になって、町内会、地域包括支援センターの協力を得て、上避難訓練を実施すること。

④福祉避難所を増設すること。また、避難において支援を必要とする市民に對して、町内会や民間の協力を得ながら、市が責任を持って対策を講じること。

⑤気候変動による豪雨災害への対応を強化すること。阿寒川中流域にとどまらず、音別川、仁々志別川などについても洪水ハザードマップを作成すること。また、鉦路川、新鉦路川、阿寒

大楽毛の新道への避難階段の入口が壊れている？



川、音別川、仁々志別川などの治水対策をハード・ソフトの両面で強めるよう関係機関に働きかけること。

鉦路新道にあがる大楽毛の避難階段は、安全のため入り口を閉鎖しています。しかし、いざという時には誰でも入れるよう、「薄いプラスチック板」を壊して腕をさし入れると、簡単に開けられるようになっています。そのプラスチック板が三か所ありますが、二つが壊れたまま、放置されています。壊れていても、避難には支障はないのですが、「津波、津波と騒いでいるときに足元がこれでは」と思ってしまうのは、私だけでしょうか。



「壊れています」